

## 《Lesson 1》 「感情の原因」を表す to 不定詞

### 感情の原因を表す to 不定詞

#### (1) 主に「～して」「～することができて」と訳される。

<例> I am very happy **to meet** you. (あなたに会えてとても嬉しいです)

I'm very sad **to hear** that she quit her job.

(彼女が仕事を辞めたのを聞いてとても悲しいです)

#### (2) 多くの場合 to 不定詞の代わりに「\*that + 文」や「because ～」で言い換えられる。

\*多くの場合、ここでの that は省略しない。

<例> I am very happy **to meet** you. → I am very happy **that I could meet** you.

I'm very sad **because** she quit her job.

#### (3) 感情を表す単語やフレーズとよく使われる。

<例> happy (嬉しい) / glad (嬉しい) / be surprised (驚く) /

be disappointed (失望する / がっかりする)

### ポイント！ **be surprised/disappointed at ～** と **be surprised/disappointed to ～** の違い

be surprised at ～ や be disappointed at ～ の場合、**at の後に来るのは名詞**です。例えば、the news (そのニュース) や my grades (私の成績) などです。一方で、be surprised to ～ や be disappointed to ～ の場合、**to の後に来るのは動詞 (+ ○○)**です。例えば、to hear the news (そのニュースを聞いて) や to find out (that) I didn't pass my English class. (私の英語授業を合格しなかったことが分かって) などです。

<例> He was very surprised **at** the news. (彼はニュースに驚きました)

He was very surprised **to** hear the news. (彼はニュースを聞いて驚きました)

I was disappointed **at** my grades. (私は私の成績にがっかりしました)

I was disappointed **to** find out my grades were bad.

(私は、私の成績が悪いことが分かってがっかりしました)

## ポイント！ **glad** と **happy** の違い

glad と happy は、ほとんど同じ意味で使われるのですが、

**glad** = 嬉しくさせる原因がないと使えない

**happy** = 嬉しくさせる原因がなくても使える

という違いもあります。そのため 「今日の調子」 を聞かれた場合、何も理由がなければ glad を使うことはできません。

<例> Q: How are you today ?

A: I am happy. (I am glad.=×)

## 【「感情の原因」を表す to 不定詞の文：作り方】

ステップ①： 「～して」「～できて」と訳される「理由」の部分のをぞいた文を作る。

ステップ②： 「理由」の部分「to+動詞+～」の形で足す。

<例1> 「私はあなたに会えてとても嬉しいです」という文の場合

ステップ①： 「～して」「～できて」と訳される「理由」の部分のをぞいた文を作る。

「私はとても嬉しいです」

I am very happy.

ステップ②： 「理由」の部分「to+動詞+～」の形で足す。

I am very happy to meet you.

<例2> 「彼はニュースを聞いて驚きました」という文の場合

ステップ①： 「～して」「～できて」と訳される「理由」の部分のをぞいた文を作る。

「彼は驚きました」

He was surprised.

ステップ②： 「理由」の部分「to+動詞+～」の形で足す。

He was surprised to hear the news.